生き生きと

制作部の１・２年生の皆さんが、３回にわたり、コミュニケーション能力育成事業で演劇に取り組みました。

１回目は、１１月１０日（木）に行われました。二人組で役割演技をしたり、ジェスチャーゲームを行ったりしました。最初は、これから何が始まるのかと緊張して身構えていましたが、だんだんと笑顔が増えていきました。

２回目は、１２月１日(木)に行われました。今度は、緊張することもなく最初から楽しみにしていたようでした。自分たちでテーマを設け、話し合って演じていました。グループでアイディアを出し合って考えていくことができていました。

そして３回目は、１月３１日（火）に行われました。ジェスチャーゲームを行った後、グループになり、劇の創作を行いました。どのグループもみんなでアイディアを出し合い、劇をつくっていきました。

練習をしたあとは発表となりました。短い練習時間でしたが、どのグループもよくできていました。それをお互いに見る態度や姿勢、そして表情が印象的でした。どのグループも一人一人が伸び伸びと生き生きとしていました。それは、グループごとにみんなでつくり上げたものだったからでしょう。

講師の方が４名来てくださいました。その方たちを見ていて気づいたことがあります。生徒たちを必ず名前で呼んでいます。生徒が何かしたら必ず「ありがとう」と言っています。ずっと笑顔で笑い声を絶（た）やすことがありません。生徒一人一人を必ずほめてくれます。ほめることができるように、一人一人をよく見ています。まさしくプロです。演劇のプロであり、ほめることのプロです。

講師の方々がめざしていたのは、普段はあまり接する機会のない相手とも協力して何かを達成するという経験をさせたいということでした。３回目のプログラムは、簡単ではない内容でした。それでも、制作部の皆さんは、どのグループもみんなで考えて劇を仕上げました。むずかしいことができたからこそ、達成感や満足感も大きかったことでしょう。

最後には、講師の方お一人お一人からお話をいただきました。それを聞く制作部の皆さんは、微動（びどう）だにせず、すべてを吸収し、自分のものにしよう、自分の心に残そうとしているように見えました。

もしかしたら、２回目、そして３回目と、制作部の皆さんは、ほめられに来ていたのかもしれません。よく言葉では「生き生きと」と言いますが、なかなかそういう姿を見ることはできません。ところが、美術室には、本当に生き生きとした制作部のメンバーの笑顔があふれていました。制作部の皆さんは、とても大切なものを身につけたはずです。